

# 日米の相違 IN 学校&美術館：美術教育はどこへ行くのか？

徳雅美 <mtoku@csuchico.edu>

Dept. of Art and Art History, California State University, Chico <<http://www.csuchico.edu/art/>>



(a postcard of *Power of Shoyo Manga* exhibition at Janet Turner Print Museum in 2005)

【プロフィール】奄美大島奄美市（旧名瀬市）生。1979年3月鶴見女子短期大学（国文科&図書館学）卒。同年4月より1989年まで三菱化成総合研究所（横浜）にて農芸化学分析助手として10年間勤務。1989年7月渡米。1990年シカゴ美術学院編入。1992年絵画専攻でBFA（Bachelor of Fine Art）学士号取得。同年イリノイ大学アーバナ&シャンペーン校大学院へ進学。1994年美術教育学で修士号取得（Master of Art Education）。同大学にて1998年教育博士号（Ed.D.）取得（美術教育学&美術館教育専攻）。1999年よりカリフォルニア州立大学チコ校勤務。美術教育並びに芸術鑑賞学で教鞭をとる。

【研究テーマ&プロジェクト】研究テーマは描画&美意識発達の比較論。特にこどもの描画に顕著に現れるヴィジュアルポップカルチャーの影響に興味を持ち、ペンシルバニア州立大学のプレントウィルソン博士とともに2000年より、共同研究「Power of Manga: Influences of Visual Pop-culture in Youth's Mind and Society」を開始。その関係で「少女マンガパワープロジェクト」を2005年に立ち上げ、北米を皮切りに世界各地で巡回少女漫画展示会&講演会を実施。2018年9月に韓国巡回が終了。2019年1月よりブラジルを皮切りに南米巡回がスタート予定。また2009年より故郷奄美大島でNPO法人アマミーナを立ち上げ、日米交流文化&教育活動を実施中。その中で主なものが美術教育ワークショップ「英語 de アート&サイエンス」と田中一村記念美術館&カリフォルニア州立大学との共同企画展示会シリーズ「Before & After：奄美の風を感じて」や「漫画特別企画展示会」がある。2019年夏は奄美大島のユネスコ自然遺産登録（予定）を記念して「松本零士&牧美也子特別二人展」を実施予定。

【講演概要】昭和から平成へ激動の1989年に渡米して今年2018年で渡米30年目を迎える。この30年を振り返って、渡米することになった理由とその経緯、また当初学芸員を目指していた私がどのようにして米国の大学で教員になることになったのか。そして現在の研究テーマや進行中の美術関連のプロジェクトと共に、日米における美術教育&鑑賞教育へのアプローチの相違など、さらに教育現場&美術館における美術教育の役割そして今後の方向性などをご紹介させていただきたいと思っております。下記の項目を含める予定です（順不同）。

- ・ 日本から米国へ：自分探しの旅の始まり（？）
- ・ 日米における美術教育の方向性の相違：感性教育 vs. Visual Literacy 教育
- ・ 米国における鑑賞教育の現状：大学一般教養コースの定番「鑑賞教育（Art Appreciation）」とは
- ・ 描画発達と美意識発達論：普遍性と文化的特異性（Universality vs. Cultural Specificity）
- ・ 巡回少女漫画展示会の目的と意義：「少女漫画の世界（World of Shoyo Manga: Mirrors of Girls' Desires）」
- ・ NPO法人アマミーナ設立と国際交流活動「奄美から世界へ！世界から奄美へ！」
- ・ これから